

# じやりみち

…被災地支援情報…

第119号 発行日 2020.1.17  
被災地 NGO 協働センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL:078-574-0701 FAX:078-574-0702

HP:<http://ngo-kyodo.org/>

Facebook:<https://www.facebook.com/KOBE1.17NGO>

E-mail:[info@ngo-kyodo.org](mailto:info@ngo-kyodo.org)

口座番号 :01180-6-68556(郵便振替)

## コロナと災害

新型コロナウイルスによる感染症が流行している中で、大規模な災害が発生してしまった。社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターもコロナ禍の影響を受け、概ね被災県内でのボランティア募集となったが、いまだに泥だらけの家が残っているなど、マンパワー不足は顕著である。どのようにすれば、こうした状況を打破できるのか？そこで鍵となってくるのは、「参加の力」である。

被災地の外から駆けつける災害ボランティアが限定されている中では、近隣地域からのボランティア参加の裾野を広げることが重要だ。多くの災害ボランティアセンターが被災した県内のボランティア募集となっているが、被災地によっては隣県からの方が近いケースもある。例えば、大分県日田市は福岡県や熊本県に隣接しており、大分市内から駆けつけるよりも、福岡市からの方がアクセスが良い。一概に県内・県外という行政区域で考えるのではなく、状況に応じて生活圏内でのボランティア募集というやり方も検討していくべきだろう。

また、災害ボランティアに今まで関わったことのない人の参加も重要である。災害ボランティアというと、瓦礫撤去などの力仕事のイメージがあるかもしれないが、被災地で求められている支援は、力仕事だけではない。例えば、炊き出しやペットの世話、子どもたちの遊び相手、被災者のお話を聴く活動、避難している人の洗濯のお手伝いなど、多くのボランティア活動がある。こうした活動は、何も特別な知識や経験がなくとも、誰でも出来るような活動である。

実際に、被災地においては多くの人たちが自発的な活動を行っている。詳しくは、次ページからの POSKO

特集も参照していただきたい。POSKOのように拠点を設けて支援を実施するところがあれば、既存の組織の中で支援を行うケースもある。あるいは、新たにボランティア団体を立ち上げるような場合もあるだろう。こうした、地域の方々の活動を含めた地域資源を徹底的に活用していくという視点を持たなければ、コロナ禍における災害対応は難しいと言えるだろう。そのため活動の基盤（人や拠点、資金）を整えていくことは平時から重要である。

そして、次に重要な点は、支援者と地域住民との関係である。大分県日田市で、地元のボランティアが炊き出し支援や交流を行う活動を開始するにあたって、実は非常に判断が難しい状況があった。支援する側としては、感染症対策をしているものの、本当に大丈夫なのか？という不安がある。支援を受ける側としても、どこまでの対策をすれば受け入れることが出来るのか、明確な基準を行政や専門家が示しているわけではなく、自分たちで判断をするしかない状況であった。感染症対策をしていても絶対に感染しないと言い切れるわけではなく、支援をする側・受ける側が、お互いに「活動の基準」を設定しなければならないことが、思い切って活動を行いにくい状況につながっていたのである。こうした中で大きな決め手になったのが、支援団体と受け入れ側の関係性である。顔の見えない不特定多数の方々を受け入れていくことは、被災者の方々も不安があり難しい状況があったが、支援をする側と支援を受ける側との間にしっかりと顔の見える関係があれば、お互いの意見交換や感染症対策を確認することによって支援活動を行うことが出来るようになったのである。

また、これらの活動が「不要不急」ではなく、被災者にとって絶対に必要なものであるという認識も一致していた。感染症のことだけを考えれば「中止」にすれば良いだけであるが、それだけでは被災者は置き去りである。被災者を救うために、どうしたら活動ができるのだろうか、という議論のスタート地点があったために、活動の展開が可能になったのであろう。

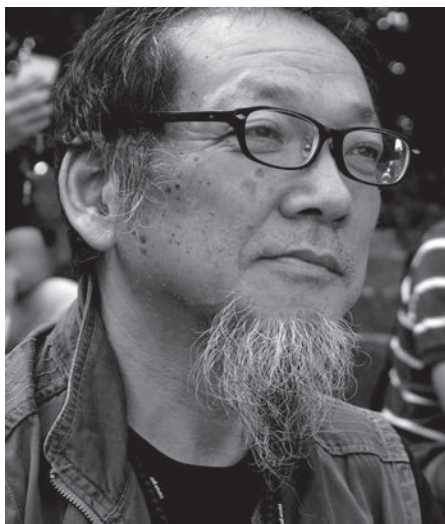
そう考えると、一概に県外ボランティアをお断りするのは得策ではなく、必要性に応じて部分的に受け入れを変動させていけば良いのではないだろうか。感染症を恐れすぎることがあまり、被災者の支援が行き届かず放置されるということはあってはならない。いずれにしても、災害が起きてからでは手遅れになることが多いため、平時からの関係性をしっかりと築き、地域の中での備えを充実させていくこと、外部からの支援の方策を考え続けていくことが非常に重要であると言えるだろう。（頼政良太）



▲地元ボランティアによる炊き出し（大分県日田市）

# コロナ禍での災害支援のあり方を探る 熊本水害（2020年7月豪雨災害）の事例から

## 特集：POSKO 支援



被災地 NGO 協働センター顧問 村井雅清

昨年12月に中国武漢で新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」と略す)が発症し、やがて世界中に広がりパンデミック(世界的流行)をもたらした。日本では1月16日にコロナ発症が確認され、厚生労働省がその旨を発表した。なんと阪神・淡路大震災から四半世紀を迎えた1月17日の前日だった。



▲甚大な被害の中、被災地を走り回った

さて、政府は4月ごろから自然災害との複合災害になることを懸念し、災害時には「分散避難」をするようにと、何度も注意喚起を促した。ここ数年梅雨時期に入ると豪雨災害が発生しているので当然の対策であろう。

一方コロナのために災害支援ボランティアが、従来のように被災地に駆けつけることができなくなった。7月4日に発生した「2020年7月豪雨災害」では、熊本県内からのボランティアはOK!だが、県外ボランティアにとっては行きたくても行けないという、もどかしくも厳しい現実となり、発災から5カ月が経過した今もコロナ第3波の影響か、その制約は続いている。

発災当初、豪雨災害による想像を絶する被害の中で、被害者は日々猛暑と泥との闘いで、汗と泥にまみれ、でも各々の歴史がしみ込んだ家具の運び出しの日々が続いたのだ。被災者世帯は、お一人暮らしの方や高齢ご夫婦のお二人暮らしの方々も多く、災害後のこの作業は過酷な日々だったことは想像に難くない。(詳細は当センターのブログ <http://ngo-kyodo.org/2020kyusyunanbu/> を参照。)

当センターではコロナ対策としての行動規範を作成し、スタッフは毎日体温を測り、健康管理を行い、現地ではマスク着用はもちろんうがいの励行や3密をさけるということを徹していた。そうした中で私は発災後2週間後に被災地に入ったが、言うまでもなく2週間後になったのは、コロナ対応のため2週間の自粛生活が不可欠だったためである。



▲人吉市内の POSKO

## インドネシアの「POSKO」だ！！

私は、二週間後に被害の大きかった熊本県人吉市内の被災地に入った。車で回っていると、「救援物資あります。自由にお持ち帰りください。」という貼り紙が目についた。「えっ、こんな被災地のど真ん中でどういうこと？」とすぐには理解できなかった。少し広い道路に車を止めて、歩いてその貼り紙をしているところまで戻ると、なんとこのお店そのものが1階の天井まで浸水し、大変な被害を受けていたのだ。にもかかわらず店主は被災店舗の泥だしや片づけに汗を流しつつ、こうして同じ被災者のために貼り紙をし、救援物資を提供していたということが分かった。「ボランティアも来ない、役所からも何の応援もない、自分たちでやるしかない」ということだった。そしてこういう貼り紙をしている場所が何カ所も目に飛び込んできた。やがて同じ人吉市内でも被災地から少し離れて被害を免れたところにも同じような貼り紙をしている支援場所が少なくなかったことに気づく。

こうして被災者自身がお互いに助け合い、そこに被害の軽微な近隣の方々が支援に駆けつけ、救援物資集配の拠点を運営するという形は、インドネシアで災害後に自然発生する「POSKO」と同じではないかと気づいた。(インドネシアのPOSKOについては、本塚智貴さん：



▲ゴトンロヨンで耐震住宅を建てる(2005年)

現明石高専教諭が月間雑誌「ニューライフ11月号」で詳しく解説されているので参考にして欲しい。

POSKOとは、災害後に被災地の中で現れる支援や避難場所としての拠点のことだ。インドネシアのPOSKOは、自治体が依頼する場合もあるが、ほとんどは誰かが指示するでもなく自然発生的に現れ、また自然に消

### POSKO 支援一覧

	団体名	活動拠点	活動内容	備考
1	球磨村雲泉寺 災害ボランティアグループ	球磨村渡地区雲泉寺	被災家屋の片付けや救援物資の提供。住まいについての相談や被災写真の洗浄作業等も行っている。冬に向け、布団・衣類・電化製品を主に仮設住宅への入居が決まった方へ配布中。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元のお寺として地域との関係が深く、また檀家さんであるなしに関わらず被災者を受け入れ、延べ300世帯ほどに支援をされている。</li> <li>・300名以上のボランティアが活動を手伝っており、機動力もある。</li> <li>・被災者に寄り添って話を聞き、ニーズの変化などにも柔軟に対応されている。</li> </ul>
2	チーム桃ちゃん	八代市坂本町	災害支援団体と連携しながら、家屋の片付けや掃除作業のほか、炊き出しやお茶会を行っている。熊本県建築士会と「住まいと暮らしの相談会」を開設。住民自治主催のヒアリングを地区ごとに実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害支援NPO、社協、建築士会等様々な団体と連携して活動を行っている。</li> <li>・専門的な団体と連携していることもあり、住居の清掃や相談会などにおいて非常に有意義な活動をされている。</li> <li>・住民のヒアリングも精力的に行われている。</li> </ul>
3	チーム神瀬	球磨村神瀬地区	福祉センターや保育園などで子どもたちの遊びや学習支援を行っている。「このせ再生委員会」を毎週開催。9/26-27に被災した保護者と子どもを対象にキャンプ実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表が住民主導で集落再生を考える「このせ再生委員会」を開催するなど地域と連携して活動している。</li> <li>・子どもたちのささいな心の変化も見逃さず、ケアをしようとしていく姿勢は評価できる。</li> <li>・代表が保育園関係者、副代表は民間の介護生活研究所の相談支援専門員をされており、女性や子どもについて多様な視点をもたれている。</li> </ul>
4	球磨村復興協力隊	球磨村神瀬地区	被災者宅の泥出しや家財道具の運び出しを行いつつ、9/17には「球磨村コミュニティサロン」を開設。炊き出しを行う「神瀬みんなでごはんプロジェクト」を2週間に1回程度実施。仮設住宅での子どもの学習支援や遊び場づくりも行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表は直近まで地域おこし協力隊を務められており、幅広い人脈を持ち、支援NPO等とも連携して活動している。</li> <li>・「被災者のみなさんが神瀬に帰って来た時に気軽によれるサロンを開きたい」という思い等被災者の心のケアも含め寄り添う姿勢が評価できる。</li> <li>・子ども支援も含め多方面で精力的に活動している。</li> </ul>
5	チームうと	宇土市	宇土市の倉庫を拠点に、被災した芦北町、球磨村の一勝地や渡地区等を支援。食料品や生活用品、清掃用具などの物資を現地に届ける他、拠点では在宅避難者らに支援物資を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、在宅避難所を主に支援していた。</li> <li>・熊本市内のお寺や各支援団体、行政等とも連携するなどネットワーク広く活動されていた。</li> <li>・援助の届きにくい被災者を支援するという基本方針等、被災地の状況を的確に分析する力がある。</li> <li>・丁寧に被災者に寄り添う姿勢が評価できる。</li> </ul>
6	個庫茶屋メンバー	人吉市	救援物資支援や家屋の片付け作業などを行う。および被災者と支援者とが共に暮らし再建に向けて、再生するカフェに集い、あらたなコミュニティ形成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元小学校教員で支援学級担当教員とのことで、特に障害者や支援の届いていない被災者への目配り、気配りをしっかりとされている。</li> </ul>

えて行く。(本塚さんによれば、中には一時休止して1年後くらいに再び再開するケースもあるとのこと。)

## 日本版 POSKO 支援を呼びかける

今回の被災地ではコロナ禍のためにボランティアが不足し、結局被災者自身が家族や親族、あるいは被害のない友人・知人の援助を受けて、発災後の作業を黙々と続けていた。そこで当センターは「県外ボランティアがダメなら、被災者自身が頑張っている POSKO を支援しよう！」と全国の人たちに募金やお米、マスクなどの提供を呼びかけた。同時に、以前から災害時に財政面でのご支援を受けている「公益社団法人 CIVIC FORCE」(URL:https://www.civic-force.org) に協力をお願いし、快諾を得て、8月～12月の4か月で6つの POSKO に1団体10～20万円の財政支援をしてきた。

日本の場合も POSKO は発災直後に立ち上がってもそのほとんどが緊急期を過ぎると消えて行く一方で、緊急期から復旧・復興期を意識し、救援物資を提供するだけではなく、心のケアを意識した「寄り添い型」支援へと移行する POSKO が残っていることが日本的なのだ。インドネシアではこうしたケースはほとんど見られない。「痒いところに手が届く」という日本ならではの災害支援の文化だといえる。「日本版 POSKO」と称しているのはそのためだ。でもインドネシアの場合は単なる思い付きで、無計画に行動しているのではなく、平時から「ゴトンロヨン」という相互扶助の文化が根付いているため、発災直後の応急対応期以外は助け合いをしないということではない。余談だが、私がインドネシアの災害後に被災地に入ってヒアリングをしているときに、高齢女性が「ゴトンロヨンは私の生きがいだ！」と言われた時にはびっくりしたものである。

## 被災地での POSKO から学ぶこと

考えて見れば、25年前の阪神・淡路大震災でも多くの被災者は大規模災害を経験するのは初めてだったために、被災者と生き残った近隣の人たちが助け合ったという事例はあちらこちらであった。今では当たり前のように言われる「自助・共助」というのは、こうした災害直後の現象がもたらしたメッセージである。地震で壊れた建物の下敷きになった被災者を生き残った人たちが必死の思いで助け出したという奇跡的な事例をはじめ、ふり返って見るとあの時にも被災地の至る所に POSKO は存在していた。ちなみに、当時の貝原俊民兵庫県知事は、「官はほとんど何も出来なかった。」と衝撃を受けられた。

さて意識をして POSKO を観察していると、POSKO には、コミュニケーションやコーディネートという意味も含まれていることを学ぶ。POSKO 一覧にもあるように、当センターがご支援をした POSKO では、ただ機械的に救援物資を届けているだけではなく、そこには被災者と向き合い、悲しみや苦しみに“寄り添う”というボランティアの姿に引き付けられる。また、被災を受けた子どもが心配で、被災者が中心になって子どもたちにイベントを通して遊び場を提供したり、学習支援サービスを提供したりしている POSKO もある。これは、被災したものの子どもたちが同じ被災児童との関係を取り戻したり、つなぎ直したりしながら、成

長していくための場や機械を提供しているのだ。また被災地の再建のために、災害をきっかけにそれまで交流のなかった多彩な地域のキーパーソンをコーディネートし、相互に連携し、またつながっていく場をつくることに尽力している。中でも私が最も感動しているのは「POSKO 個庫茶屋メンバー」だ。最後に紹介しておきたい。

## 寄り添い型支援 「POSKO 個庫茶屋メンバー」

実は、この個庫茶屋メンバーとの出会いは偶然がもたらした結果だ。私が、いつも被災地に入ると球磨村はじめ、芦北町、八代市坂本町を訪問し、人吉市内の被災地には時間があれば何度も訪問してきた。それは POSKO の変化を確認するためでもあった。

いつものようにグルグルと回っているときに、国道219号線を走っていると左手に「物資あります」という文字が目に入ったのだ。しかし、何かを探す風でもなく普通に走っていたので通り過ぎてから「あれっ？」と気になり、Uターンして確認しに戻ったところガレージにその紙は貼ってあり、訪ねたことがきっかけだ。

こうして個庫茶屋メンバーに出会ったのだが、元小学校の教員をされていた代表のSさんと話しているうちに、考え方や感性に魅せられ、「絶対ここを POSKO として支援しよう！」と胸の内に決めていたのだ。時々、いろいろな話をしているときに、うっすらと涙を浮かべていたのが印象的だったことも影響したのだろうか。ある時「この場所を続けるにあたって、将来の夢って描いていますか？」と聞いたことがあった。その時のSさんの答えが、「災害が起きた直後のある日、家の



▲個庫茶屋のお風呂



▲修復中の個庫茶屋

前の道路際の歩道に1人の男性が、下を向いてうずくまって座っていたの。気になったので声をかけたところ、水に浸かって何もかもダメになったということ話を始めたの。ふと、手元を見たら植木鉢に紐を括り付けていたのが目に入ったので、それどうされたの？って聞いたたら、水に浸かったけれど、この植木は大事に育ててきたので……とのこと。庭のそこに置いてもらっていいですかと言われたので、いいですよ！ということからその男性と出会ったの。その男性は、それから毎日一鉢ずつを引きずるように持ってきたの。そのうち、少しずつその方が元気になってきたなど変化を感じたので、この男性が住んでいたところを再生し、ここに繋がってきたいろいろなボランティアさんと、そして私が教員をしていた時以来繋がっている障害者の人たちとみんな“カフェ”ができたらいいなあと……、そんなことを夢見ています。」との返事。なんとこの男性は床上浸水に遭って以来、ずっと風呂場に布団を敷いて寝ていたとのこと。タイル張りの風呂場なら一度洗って乾かせば、そこに布団が敷けると風呂場を寝床に暮らしていたらしい。

Sさんの願いは夢ではなく、着々とカフェオープンに向けて進んでおり、写真のように風呂場で寝ていたその男性が住む畳の部屋も完成した。

Sさんは、「今回は皆さんの力を貸してもらうことにします。今回のような災害からの復興には力が足りません。目指すは、小さいけれど居心地良く、老若男女がふらっと来れる場所です。人吉から消えたお菓子や

昔のおやつ、新鮮で安い野菜などが扱えるお店があればいいなという声に後押しされている所です。」と夢を膨らませている。



▲個庫茶屋の様子

たかがボランティアかも知れないが、こうして被災者を元気にし、ボランティアや近所の人、また旧知の友人たちをも巻き込んで、コミュニティ再生の場を作っている個庫茶屋メンバーをこれからもささやかながら応援していきたい。個庫茶屋の「個」は、誰もが独りぼっちじゃないよというメッセージだと受け止めている。

なお POSKO 支援は、第2弾として生活協同組合コープこうべからのご支援を受けましたので、継続します。

第2弾の支援先は、2021年1月時点で、球磨郡球磨村渡(峯・島田)地区自治会) / 球磨村雲泉寺ボランティアグループ / 個庫茶屋メンバーの3団体です。被災地は復興のステージに入っていきますが、当センターによる POSKO 支援は継続していきます。みなさんご支援をよろしくお願ひします。

(文責 村井雅清)

#### 参考資料

\*本塚智貴(2014). 自主設置型の仮設災害対応拠点におけるアダプティブ・ガバナンスに関する研究—インドネシアの POSKO を事例として— 京都大学大学院工学研究科博士論文

\*本塚智貴(2020). しなやかに災害と付き合う知恵—第5回 想定外と言わない災害対応— 月刊ニューライフ, 2020年11月号, pp27-31 ニューライフ

# 2020年7月豪雨の災害支援 多くのご協力ありがとうございます

## 熊本県球磨村

POSKO 支援を実施しています。また、地元団体や支援にはいる「故郷復興くまもと研究所」と連携しながら、球磨村神瀬地区の復興を考える集まりなどのサポートを実施しています。



▲神瀬再生委員会の様子

## 大分県日田市

日田市の「NPO 法人リエラ」や新たに立ち上がった「天ヶ瀬温泉未来創造プロジェクト」と協力し、災害ボランティアセンターのサポートや、オンライン相談会、復興に向けた勉強会などを開催しています。



▲オンライン相談会の様子

## 熊本県八代市坂本町

八代市に応援に入った「コミサポひろしま」や地元団体である「チーム桃ちゃん」と連携し、継続した支援を行っています。家屋の泥だし等を中心に、被災者の生の声を聞きながら活動しています。



▲家屋修繕ボランティア

## 熊本県芦北町

POSKO 支援などを実施しています。古くからつながりがある水俣市の谷さんとの連携や、地元団体である「NPO 法人ななうらステーション」や支援に入っている「一般社団法人おもやい」と連携して支援を実施しています。

## 熊本県人吉市

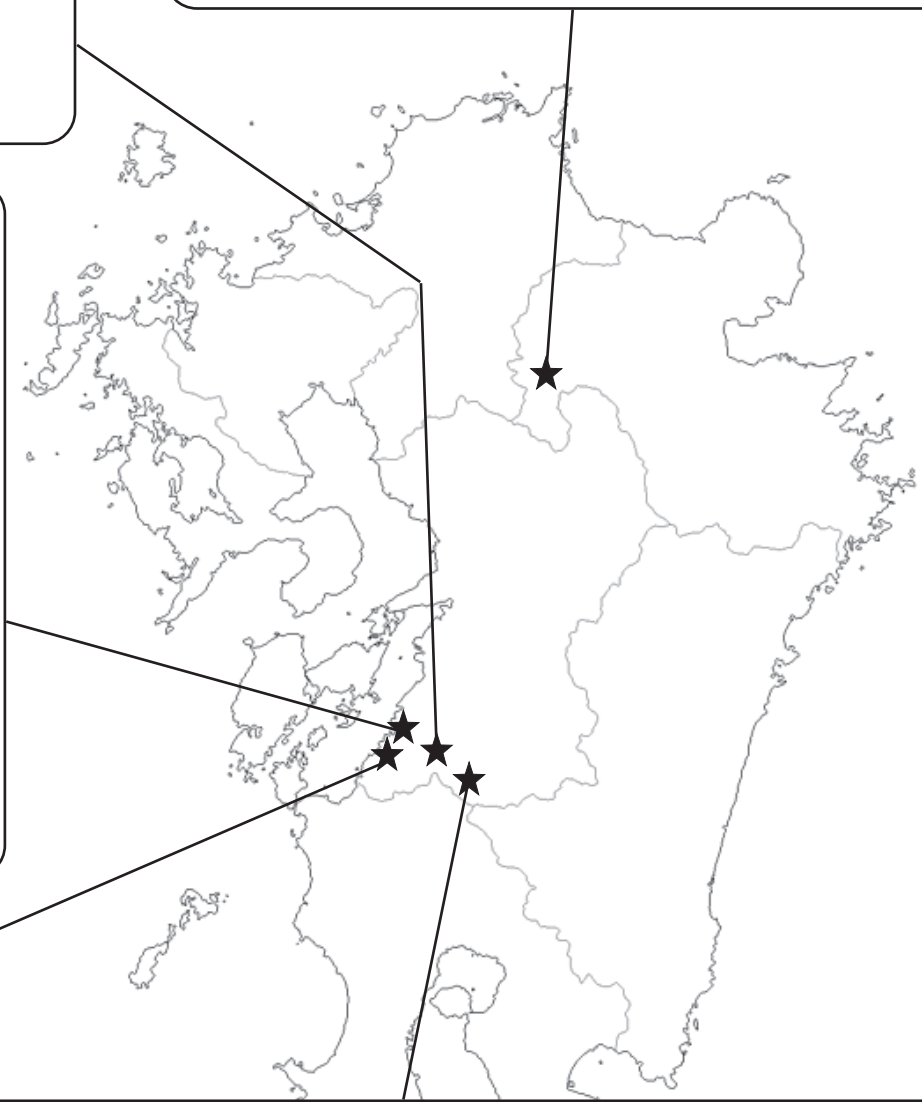
POSKO 支援として、いくつかの団体を支援するとともに、災害ボランティアセンターのサポート、地元団体である「アーキレスキュー人吉球磨」のサポートや相談会の実施等を行っています。



▲相談拠点の整備



← 古民家再生ボランティア





# 新型コロナウイルス感染症の支援に ご協力をお願いします。

～CODE は世界と日本をつなぎます～

新型コロナウイルスは、世界的な感染の広がりをみせています。CODEは、被災地支援の経験とネットワークを最大限に活用し、国際アライアンスを立ちあげ、世界各地の経験や取り組みを共有・発信しています。支援から取りこぼされていく「最後の一人」を大事にしていきます。ご支援・ご協力よろしくお願ひいたします。

## ■現在の取り組み

- ・国際アライアンスで世界の仲間たちとコロナ危機に対する取り組みや経験を共有し、共に解決の道を探していきます。(日本でのボランティアなどの取り組みを教えてください。世界へ発信します。)
- International Alliance for COVID-19 Community Response HP:<http://www.iaccr2020.net/>
- ・海外のカウンターパートを通じて途上国の厳しい状況の人たちを支えます。
- ・コロナで困窮している日本の若者たちを支え、応援します。
- ・最前線で戦う医療従事者を支えます。

## ご寄付の方法

### ■ 銀行振込

#### ゆうちょ銀行

支店名：〇九九店  
(ゼロキウキュウ)  
支店番号：099  
口座番号：0330579 (当座)  
口座名義：CODE

#### 近畿労働金庫

支店名：神戸支店  
支店番号：642  
口座番号：8881040 (普通)  
口座名義：CODE海外災害  
援助市民センター

### ■ 郵便振替

口座記号番号：00930-0-330579  
加入者名：CODE

### ■ クレジットカード

CODEのHPよりご寄付いただけます  
<http://www.code-jp.org/cooperation/index.html>



## ■事務局ボランティアも募集しています！

私たちと一緒に活動して下さるボランティアさんを随時募集しています！初心者の方も全く問題ありません。ボランティアでの活動を通して、NGOや市民社会、防災・減災のことも学ぶことが出来ます。やる気のある方大歓迎です。ぜひお越しください。



当センターの姉妹団体「CODE 海外災害援助市民センター」の活動にもご協力よろしくお願ひします。

### ■ 編集後記

新型コロナウイルスの感染が拡大しています。まさに全世界が災害の渦中にあると言えるのではないのでしょうか。

先日、関西学院大学で開かれた「被災地交流集会」に参加しました。そこで、弁護士の津久井先生が「コロナはまさに災害であるので、これまでの災害のノウハウを生かして支援を行うべきだと思ふ。これまでの災害経験からすれば、ボランティアは絶対に必要。」というようなことをおっしゃっていました。

コロナ禍という災害に対しても、そして昨年の災害からの復旧・復興、そして、新たに発生するかもしれない災害への備え。それら全てにおいて、ボランティアを中心とした市民の活動が必要不可欠であろうと思ひます。

だとすれば、単純にコロナ禍であるから活動を中止する、とするのではなく、それぞれがコロナ禍での状況下で、「どうすれば活動できるのか？」について知恵を出し合う必要があるでしょう。まずは、その知恵を出し合うテーブルを用意することが重要ではないかと感じています。

(頼政良太)

### ■ 入金・カンパのお願い

被災地 NGO 協働センターでは、会員を随時募集しています。普段なかなか活動にご参加できない方でも賛助会員等で活動に間接的にご参加いただくことが出来ます。活動カンパ、事務局カンパも随時受け付けています。下記の振込先によりしくお願ひ致します。

- ★団体会員 年会費 ¥ 10,000 × 1口以上
- ★個人会員 年会費 ¥ 3,000 × 1口以上
- ☆団体賛助会員 年会費 ¥ 10,000 × 1口以上
- ☆個人賛助会員 年会費 ¥ 3,000 × 1口以上
- ☆自由選択会員 年会費 ¥ 任意の額

■郵便振替 加入者名：被災地 NGO 協働センター  
口座番号：01180-6-68556

#### ■ゆうちょ銀行

支店番号：一一九 (イチイチキュウ) 支店/店番：119  
当座 0068556 / 受取人名：ヒサイチ NGO キョウドウセンター

#### ■クレジットカードでのご寄付

クレジットカードでも会費やご寄付をしていただくことができます。下記 URL もしくは右の QR コードからお願ひします。

<https://congrant.com/project/ngokobe/605>



共に「住み良い社会」「災害に強い社会」を築いていくために、継続的な寄付にご協力をお願いします。

# マンスリー サポーター募集中

マンスリーサポーターは、クレジットカード  
で毎月定額のご支援をいただくサポーター制度です。

被災地 NGO 協働センターは、阪神・淡路大震災以来、様々な被災地を支援している団体です。

昨今、災害は頻発し、巨大化しています。そうした災害に対し、より迅速に支援に入るため、そして、平時から災害に備える活動をより充実させていくために、みなさまのご協力をお願いします。

\* いただいたご寄付は、被災地支援活動、災害に備える防災・減災の活動、啓発活動、ネットワークを広げる事業などに使用させていただきます。

## 【方法】

被災地 NGO 協働センター HP  
<https://congrant.com/project/ngokobe/632>

「ご協力方法」のページからマンスリーサポーター申し込みフォームに誤入力をお願いします。右の QR コードでもお申し込みいただけます。



## マンスリー サポーターとは？

クレジットカードで毎月定額のご支援をいただくサポーター制度です。毎月のご支援は長期的な運営を行う上で大変貴重です。

お申し込みは、用紙の記入、銀行での手続きなどは不要で、クレジットカードとインターネット環境があれば申し込み可能です。

毎月 1000 円、3000 円、5000 円のコースをご用意しています。

是非、ご協力をお願いします。

被災地 NGO 協働センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通 2-1-10

TEL : 078-574-0701 FAX : 078-574-0702

E-mail : [info@ngo-kyodo.org](mailto:info@ngo-kyodo.org)